

2024年度 講義要綱

科 目	必修 コミュニケーション I 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) 		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美) 		
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 クラス活動① 3 コミュニケーションプログラム担当:三浦さなえ 4 クラス活動② 5 クラス活動③ 6 産学連携 7 クラス活動④ 8 クラス活動⑤ 9 クラス活動⑥ 10 クラス活動⑦ 11 クラス活動⑧ 12 産学連携 13 クラス活動⑨ 14 クラス活動⑩ 15 クラス活動⑪ 16 オリエンテーション 17 クラス活動⑫ 18 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう 19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:井上まどか 課題提出 20 クラス活動⑬ 21 産学連携 22 就職にむけて(1)担当就職相談室 23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代 24 就職に向けて(2)担当就職相談室 25 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出 26 クラス活動⑭ 27 産学連携 28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:江花志乃 29 クラス活動⑮ 30 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優 		

必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	佐藤博美: 実務経験のある教員による授業に該当。 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう: 講座責任者 ○井上まどか: 絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃: 書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優: 図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代: 書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2024年度 講義要綱

科目	必修 講義		講師	真砂 雄一
授業概要	健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につけておく必要がある。スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えていく。			
授業目標	・生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル(生活様式)を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 ・誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 ・授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。			
到達目標1	健康・スポーツについての基礎知識を身につけ、理解したことを説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、中間試験(10点)、筆記試験(30点)	
到達目標2	誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、中間試験(10点)、筆記試験(30点)	
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義のアクティブラーニング・スタイルで行う。 授業で学んだ知識を日常生活に取り入れ、自身の健康について考える機会としてもらいたい。 ※社会情勢や進行状況に合わせて内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	1 ガイダンス・スポーツについて考える 2 子どもにとっての公園遊具とは 3 健康と運動 4 年齢別に応じた運動指導 5 色々な環境下での運動(オンライン) 6 産学連携 7 体力 8 中間試験 9 幼児期に必要な運動(体育) 10 運動時の怪我と応急処置(骨と筋肉・加齢) 11 トレーニング(オンライン) 12 産学連携 13 運動神経とは 14 人体の構造と機能 15 まとめ、振り返り、筆記試験			
必須テキスト	特になし(授業中に配布、オンライン上に資料を掲示)			
参考文献	授業内で適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。 専門分野: 幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2024年度 講義要綱

科目	日本語 必修 講義		講師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。			
授業目標	1.「話すこと」自分の伝えたいことを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の考えや思いを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。			
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる(話す・書く)。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)、素話の発表・言葉遊びの実技・課題(小論文や観察記録など)・授業の振り返りのリアクションペーパー(40点)	
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる(聞く・読む)。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)、話の聞き方の実技と振り返り(20点)、絵本の読み聞かせの実技(10点)・授業の振り返りのリアクションペーパー(10点)	
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介 2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他) 3 【書】観察記録・実習日誌の書き方 4 【書】連絡帳の書き方 5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方 6 産学連携 7 乳幼児の言葉の発達と言語表現 8 【話】素話の発表・【話】保護者への話し方 9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)(言語的技法) 10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)(非言語的技法) 11 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(1) 12 産学連携 13 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(2)(模擬保育) 14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ 15 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	授業で適宜紹介。			
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、幼児と言葉・保育内容指導法(言葉)・文章表現・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2024年度 講義要綱

科目	保育原理		必修 講義	講師	小澤 由理
授業概要	保育者として基礎的な保育の事項を学ぶことを目標に、保育の歴史・思想を通じて保育の目的や意義を理解するとともに、保育に関する法や制度、保育の内容と方法、そして今日求められる保育者の在り方について理解する。保育の内容と方法については、保育所保育指針を基礎にしながら、幼児の発達の特徴を学ぶとともに、具体的な保育指導計画をもとに保育記録を作成することで、保育者に求められる考え方や態度について理解する。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。 				
到達目標1	保育の歴史、思想および実践的な原理を理解し、保育職の意義を理解し、倫理観を高める。保育の内容構成や基本方針を理解し、現代における保育の在り方と、保育現場に求められている内容について理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10%)+小課題・試験(40%)		
到達目標2	保育の原理一般に関する正しい知識を踏まえ、具体的な保育の現場を想定し、自らで保育の記録を取り、ドキュメンテーションとしてまとめ、発表・議論することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題への取り組み(10%)+課題(ドキュメンテーション)の提出(40%)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使ったスライドを活用した講義を中心に、プリント・資料を配布する。またGoogleフォームを活用した小課題の提出や期末には試験課題を実施する。 ・授業の後半にドキュメンテーションの作成・発表・議論を行う。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 この授業の内容や方法について説明する。課題や採点方法についても説明する。 2 現代の保育の基本的な思想である、ルソー、フレーベル、倉橋惣藏の保育思想に触れ、理解を深める。 3 現代の保育に関する法律・施設の種類について理解をする。また保育所保育指針における養護と教育の一体化の在り方や、乳児保育の3つの視点、幼児保育の5領域について知る。 4 保育所保育指針に基づき、現代の保育に求められる保護者支援や子育て支援について知る。 5 保育所保育指針に基づく、乳児の発達の在り方と望ましい関わりについて知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 6 産学連携 7 保育所保育指針に基づく、幼児の発達(1歳児～2歳児)と望ましい関わり方について知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 8 保育所保育指針に基づき、幼児(3歳児～5歳児)の発達と望ましい関わり方について知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 9 現代の保育に求められる保育施設の最低設置基準や、様々な保育場面や保育方法で用いられる環境構成について知る。 10 保育課程について理解を深め、指導計画に基づく保育の実践の在り方について知る。 11 指導計画の作成のための保育記録の在り方について知り、その手法の一つであるドキュメンテーションの実践に触れる。 12 産学連携 13 保育記録の手法の一つであるドキュメンテーションを作成する。 14 ドキュメンテーションを発表し、互いに議論する。 15 試験課題に取り組み、本科目で学んだことをふり返る。 				
必須テキスト	広岡 義之 監修 熊田 凡子 編著『新しい保育原理』ミネルヴァ書房 2024年 その他、授業時にプリントを配布する。				
参考文献	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
担当教員の専門分野等	西洋・日本の女性教育史の研究。保育実習指導に関する研究。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科目	教育原理 必修 講義		講師	佐藤 雄哉
授業概要	「教育とは何か」という問いをめぐる理念的・歴史的・制度的な知識を学びます。また、現代的な教育課題に関する知識についても学びます。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 			
到達目標1	教育の理念・歴史・制度に関する基礎的な事項について理解し、自らの教育観を深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(24点)、レポート(26点)	
到達目標2	授業の中で考えたことについて自分の言葉で表現することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(24点)、レポート(26点)	
授業方法	基礎的な事柄については講義形式で授業を行い、適宜グループワークやディスカッションに取り組みます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:教育とは何か 2 権利としての教育 3 子どもを不登校にする学校 4 子どもを障害によって分ける学校 5 基礎とされる学力 6 産学連携① 7 個人の所有物とされる学力 8 価値観を教え評価する学校 9 学校での人権教育の可能性 10 子どもを管理する「校則」 11 学校における権利保障 12 産学連携② 13 インクルーシブな社会のための学校 14 子どもの意見に応えようとする実践 15 総括・まとめ:改めて教育とは何か 			
必須テキスト	池田賢市『学びの本質を解きほぐす』新泉社、2021年			
参考文献	中村文夫編『足元からの学校の安全保障』明石書店、2023年			
担当教員の専門分野等	教育史、人権教育論。東京大学大学院教育学研究科博士課程。修士(教育学)。中学校における学習支援員(板橋区)。産業・教育資料室きねがわ運営委員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	25 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 講義		講 師	荒田 直輝
授業概要	本授業では①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深めること②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 			
到達目標1	子ども家庭福祉における基礎的な知識に対して幅広く興味・関心を持つことを目標とする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(出席状況も加味) 50点	
到達目標2	子ども家庭福祉の各回のテーマで学んだ内容に対して感じたことを言語化する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各回授業の終わりに小レポート(感想を含む) 50点	
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 「子どもの権利」とは 3 子ども家庭福祉の歴史的展開 4 現代社会における「子どもと生活」 5 子育てをめぐる問題① 6 産学連携 7 子育てをめぐる問題② 8 保育サービス① 9 保育サービス② 10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは) 11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは) 12 産学連携 13 子どもの遊びと福祉③(冒険遊び場とは) 14 子どもの居場所と福祉 15 子ども・若者の社会参加・参画 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の 専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	30 %

2024年度 講義要綱

科目	社会福祉 必修 講義	講師	久利 要子	
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 			
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出状況等、授業への取り組み度(25点)・講義内容に関する筆記試験(25点)	
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出状況等、授業への取り組み度(25点)・講義内容に関する筆記試験(25点)	
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する最新資料や映像教材なども活用していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史の変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉の実施機関 6 産学連携 7 社会福祉の専門職 8 社会保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論 10 相談援助の意義と機能 11 相談援助の対象と過程 12 産学連携 13 相談援助の方法と技術 14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 15 今後の展望・学習のまとめ(筆記試験) 			
必須テキスト	『十訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい			
参考文献	『社会福祉小六法2024』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I 必修 講義		講 師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。			
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。			
到達目標1	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 保育士として必要な人権意識がもつことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)	
到達目標2	子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)	
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。			
授業計画	1 社会的養護とは？(理念と概念) 2 社会的養護の歴史 3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割 4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護 5 施設内虐待の防止 6 産学連携 7 児童虐待 8 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職 9 養護の基本原理 10 家庭養護 11 施設養護の実際(支援内容) 12 産学連携 13 施設養護とソーシャルワーク 14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など) 15 社会的養護と地域福祉、今後の展望			
必須テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護 I」原田句哉他編著 萌文書林 「ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック」中央法規			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	保育の心理学 必修 講義		講師	小沢 恵美子
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 			
到達目標1	子どもの発達に関する心理学の基本的知識に基づき、子どもの発達について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記期試(50点)	
到達目標2	自分が保育者となった時のことを考えながら、子どもや保護者への具体的な対応を述べるができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みやアクションペーパー(15点)、レポート(35点)	
授業方法	テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。 可能であれば各自の考えを発表する機会なども設ける。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、子どもの発達と環境 2 情緒の発達 3 自我の発達 4 愛着の形成 5 愛着行動と愛着の発達 6 産学連携 7 社会的相互作用 8 認知の発達① 9 認知の発達② 10 コミュニケーションの発達 11 乳幼児期の学びにかかわる理論 12 産学連携 13 動機づけ 14 発達障害について 15 全体のまとめ 			
必須テキスト	『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著、萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学でも「子ども(幼児期)」の分野に興味があります。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2024年度 講義要綱

科目	子どもの理解と援助 必修 講義		講師	藤高 直之
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する 			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 産学連携週 7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 産学連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験 			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2024』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	子ども家庭福祉(主に子育て支援)が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	子どもの保健 必修 講義	講師	中村 直美	
授業概要	①子どもの身体の発育、発達の基本を学ぶ。②子ども特有の身体症状や病気について学ぶ。 上記①②の知識を踏まえて 子どもの心身の健康の維持、増進の方法や現状と課題について考えていく。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1. 子どもの身体発育、発達の基本、子ども特有の身体症状や病気の基本を知り、それを踏まえた保育の中での保健的対応について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)	
到達目標2	2. 子ども特有の健康に関する問題、課題を知り健康の維持、増進について関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)	
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義形式 2, 事例ワーク等を通して保育所での保健活動の実際等を紹介			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康の概念について 3 子どもの身体発育の特徴について 4 子どもの運動機能の発育、原始反射について 5 新生児の理解と特徴的な病気について 6 産学連携 7 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気①(脳) 8 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気②(感覚器) 9 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気③(循環器) 10 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気④(呼吸器) 11 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気⑤(消化器) 12 産学連携 13 子どもの健康状態の観察とよくみられる症状について 14 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について 15 試験・まとめ			
必須テキスト	最新 保育士養成講座 第7巻 「子どもの健康と安全」			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所に勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2024年度 講義要綱

科目	子どもの食と栄養		必修 講義	講師	高尾 優
授業概要	栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。 また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。				
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等				
到達目標1	栄養の基礎的な知識を身に付ける。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席および授業の取り組み・課題(20点)受講態度、課題の提出状況などを評価します。 定期テスト(30点)		
到達目標2	子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。保育所における食育について理解する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループディスカッションを行い、課題と改善方法について考える。(30点) 定期テスト(20点)		
授業方法	講義および演習を行う。授業内容の復習のための小テストを実施する。				
授業計画	1 子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題) 2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝 4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本 5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養 6 産学連携 7 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養) 8 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活、生涯発達と食生活 9 食育の基本 10 児童福祉施設や家庭における食事と栄養 11 食の安全(食中毒) 12 産学連携 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良および疾病の子どもへの対応 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応 15 定期試験				
必須テキスト	今津屋直子・久藤麻子編著 新・子どもの食と栄養 教育情報出版 2022				
参考文献					
担当教員の専門分野等	小児栄養学(食育、食物アレルギー)				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科目	保育の計画と評価 必修 講義		講師	村山 久美
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)を学ぶ 指導計画の実際について学ぶ			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標1	質の高い保育実践のための保育の計画及び評価について理解することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 講義内容に関する筆記課題(30点)	
到達目標2	全体的な計画と指導計画について、意義と方法を理解し、作成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 計画の作成(30点)	
授業方法	講義形式、指導計画の作成・発表(ICTの活用、協働学習を含む)			
授業計画	1 オリエンテーション 保育の目標と計画の考え方 2 保育におけるカリキュラムとは 3 子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環 4 全体的な計画とは 5 長期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 6 産学連携 7 長期的な指導計画の作成(3歳以上児) 8 短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 9 短期的な指導計画の作成(3歳以上児) 10 指導計画作成の留意事項① 11 指導計画作成の留意事項② 12 産学連携 13 指導計画に基づく保育の展開 14 保育の記録と省察、評価と改善 15 試験 「部分実習指導計画の作成」			
必須テキスト	『保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房			
参考文献	保育所保育指針			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、執筆。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2024年度 講義要綱

科目	保育内容総論 必修 講義	講師	戸田 真	
授業概要	この科目では、保育内容を総合的に捉える視点を養い、実際の保育現場の事例を通して保育内容について理解を深めます。授業を通して様々な保育知識や価値観に触れ、自分の保育観の基礎を考えていきます。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な保育者像、環境、考え方と出会うことによって、自分なりの保育者像、環境イメージを持つ。 2. 共同作業の経験を重ねることによって、人と協力的な関係を気づく力を養う。 3. 子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知る。 			
到達目標1	子ども発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知ることで自分なりの保育士像を持つことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート→25点 テスト→25点	
到達目標2	ディスカッション等の経験を重ねることによって他者との関わる力を身に着けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論貢献→25点 意欲態度→25点	
授業方法	講義・ディスカッション・個人ワーク・グループワーク			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育のイメージ 保育園における養護と教育とは何か考える 2 環境について 人的環境・物的環境を考える 3 子どもの道徳理解について考える 4 子どもの自制心について考える 5 (オンライン)保育園における伝統行事とは 6 産学連携 7 保育園の保護者支援とは 8 命について 9 友達同士の関わりで学ぶものは 10 保育の中の選択とは 11 (オンライン)保育に影響を与えた偉人達 12 産学連携 13 子どもの権利条約を考える 14 自分の保育感を考える 15 試験 			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。 幼稚園9年、保育園8年勤務 現在主任として勤務、第三者評価員として評価機関に所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I		必修 講義	講 師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関するレポート(30点)		
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(20点)、実践発表(30点)		
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 対面授業は1回目からすべて7階 A71教室にて行う。 *社会情勢や進行状況に合わせて内容や順番を適宜変更する。				
授業計画	1 ガイダンス・からだほぐし 2 身体表現 3 ボール遊び① 4 リズム遊び・鬼ごっこ 5 幼児期に必要な運動とは①(オンライン) 6 産学連携 7 ボール遊び② 8 運動遊び実践の計画立案作成/グループ決め 9 運動遊び実践① 10 運動遊び実践② 11 幼児期に必要な運動とは②(オンライン) 12 産学連携 13 運動遊び実践③ 14 運動遊び実践④ 15 身体表現遊びのまとめ、振り返り、レポート試験				
必須テキスト	特に必要なし				
参考文献	授業中に紹介する				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。 専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科目	必修 保育内容の理解と方法・音楽遊び I 講義	講師	国友 真知子、山崎 洋子、鈴木 真智子、高山 美帆、鍋島 久美子	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、法定伝染病感染予防のため必ずイヤホンかヘッドフォンを持参してください。(備え付けはありません)			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A)②グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 ①ピアノ等による個人レッスン/②歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ①ピアノ等による個人レッスン/②保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 ①ピアノ等による個人レッスン/②現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ①ピアノ等による個人レッスン/②子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ①ピアノ等による個人レッスン/②わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ①ピアノ等による個人レッスン/②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ①ピアノ等による個人レッスン/②簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ①ピアノ等による個人レッスン/②リズムを含む歌遊びの演習 11 ①ピアノ等による個人レッスン/②互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ①ピアノ等による個人レッスン/②個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) ②共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)②共)			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I 必修 講義	講 師	高木 秀文
授業概要	親しみのある画材や身の回りにある素材を使って表現活動する「造形」を子どもと一緒にあそぶように保育者自身も楽しめるための知識と技能を身につける。		
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動を自ら取ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。
到達目標2	季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして子どもに向けた幅広い造形活動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。
授業方法	幼児期の絵画表現を擬似的に再現して造形活動への理解と興味を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。		
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業内容、教材、用具、評価の説明。 児童画を鑑賞して気づいた点をコメントして共有します。 貼り絵の製作課題の準備として身の回りの用紙集めの説明。</p> <p>2 幼児期の造形表現の道すじ-1 なぐり描き期の説明と作例の共有をします。 関連演習一背面向きで顔を描く。</p> <p>3 幼児期の造形表現の道すじ-2 象徴期の説明と作例の共有をします。 関連演習一身の回りの顔さがし。</p> <p>4 幼児期の造形表現の道すじ-3 図式期の説明と作例の共有をします。 関連演習一絵描き歌を考える。</p> <p>5 貼り絵製作 1 身の回りで集めた用紙、色紙を用いて貼り絵のお弁当を作ります。</p> <p>6 産学連携</p> <p>7 貼り絵製作 2 り絵のお弁当を入れるリュックサックを色画用紙で製作します。</p> <p>8 紙粘土製作 1 粘土玉作り、ペットボトルへ貼り付け、色粘土作り。</p> <p>9 季節ごとの行事やテーマを考える 6月にまつわる風物や行事から題材を取った絵とお話作り。</p> <p>10 紙粘土製作 2 粘土1で作った粘土玉で頭足人を製作、他製作物の共有します。</p> <p>11 折り紙製作 折り方と切り方を変えながら各種花びらを製作します。</p> <p>12 産学連携</p> <p>13 デカルコマニー すり合わせ版画の製作と見立てた結果を共有します。</p> <p>14 紙染め製作 キッチンペーパーを使った揉み紙と紙染めをします。</p> <p>15 はじき絵製作 油性クレヨンと水彩絵具ではじき効果を共有します。</p>		

必須テキスト	特になし。			
参考文献	授業内で適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	絵画(日本画)制作。文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	乳児保育 I	必修 講義	講師	向井 優芽
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。乳児保育 I では、乳児保育の意義や目的、乳児保育の現状や課題、また3歳未満児の発達を踏まえた保育内容について学んでいきます。			
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1. 乳児保育の意義・目的を説明できるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	最終回に実施予定のテスト(30点) ワークシート(授業態度を含む)(20点)	
到達目標2	2. 乳児保育における「愛着」や「安全基地」について自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	最終回に実施予定のテストにて、自分の言葉で「愛着」や「安全基地」とは何かを説明する。(30点) ワークシート(授業態度を含む)(20点)	
授業方法	・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり			
授業計画	1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間があれば、乳児保育についてのイメージを聞かせていただければと思います。 2 乳児保育とはそもそも何か、またその社会的意義について学びます。 3 保育所保育指針における乳児保育の理念と、児童福祉施設の設備運営に関する基準について学びます。その上で、乳児保育が行われているさまざまな場所についても知っていきましょう。 4 子どもが育つことの基盤になる「愛着」について学びます。子どもは愛着対象である大人を安全基地にして遊びや環境に向かいます。それによって、子どもは好奇心や探究心をもって、外の世界に自ら働きかけることが出来るようになります。 5 乳児保育で大切な「3つの視点」と、1歳以上3歳未満、3歳以上の保育で大切な「5領域」について、それらがなぜ必要なのか、また「3つの視点」と「5領域」のつながりについて学びます。 6 できれば乳児保育(0歳児、1歳児、2歳児クラス)で子どもがどんな遊びをしていたか、どんな様子だったか、について観察してきてもらえたらと思います。 7 0～3歳を見通したときどんな流れで子どもが発達して(育って)いくのか、おおまかにさらってみましょう。 8 保育所保育指針第2章には、保育における「ねらい」と「内容」が書かれ、その上で「保育の実施に関わる配慮事項」という項目が設けられています。そこに書かれた内容について詳しく学んでいきましょう。 9 保育所や認定こども園の乳児保育では「日課」や「デイリープログラム」と呼ばれる1日の流れがおおまかに決められています。子どもが同じ生活リズムで過ごすことが、心身の安定につながるからです。そうしたデイリープログラムについて、具体的に見ながら、同時に職員の勤務体制についても考えてみましょう。 10 具体的な事例から、職員間の連携について考えてみましょう。同時に担当制についても触れ、そのメリットや気を付けなければならないことについても考えてみましょう。 11 乳児を保育する上では、特にその家庭での過ごし方を知ることが重要です。保育する上で必要な保護者とのコミュニケーションと、その支援について学びます。 12 子どもと保育者が関わる場面から、「愛着」というものを感じたり、年齢が低いながらも夢中で遊ぶ子ども、それを支える保育者のかかわりに注目してみましょう。 13 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のものを読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。 14 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のものを読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。 15 ・乳児保育の意義・目的を説明する ・乳児保育における「愛着」や「安全基地」とはどういうものか、具体的な例を用いて説明する ※教科書やプリントの持ち込みは不可。自分でまとめたノートなどは持ち込み可とする			

必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 松本峰雄監修 池田りな・才郷真弓・土屋由・堀科(2019)『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房			
参考文献	授業中に紹介			
担当教員の 専門分野等	保育者の専門性について研究しています。 とくに子どもと保育者が実際にかかわっている相互行為において生じる専門性の研究をしています。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ 必修 講義	講 師	向井 優芽	
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。特に発達を中心にしながら、それが子どもにとってどんな意味をもたらしているのか、またその発達に即した援助(関わり、環境構成)とは何かを学びます。 そして実際に見聞きした事例を用いて、明日以降の保育をどのように計画するか、実際に考え、学びを深めます。			
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	乳児保育に該当するこども(0歳～3歳)の発達を知り、その配慮事項を説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内で作成する発達表の提出をもって評価する(50点)	
到達目標2	乳児保育における3つの視点や、1歳以上3歳未満児の保育における5領域を説明できるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	14回目、15回目に行うGW、発表、提出物から判断する(50点) 子どもの育ちを、視点や領域から捉えることができているか。 そこからどのような育ちをねらうか。そのための環境の配慮は十分に検討されているか。	
授業方法	講義、グループワーク、発表、演習			
授業計画	1 オリエンテーション 2 0歳児(乳児)の発達と配慮事項について 3 0歳児(乳児)の発達と配慮事項について 4 1歳児～3歳未満児の発達と配慮事項について 5 1歳児～3歳未満児の発達と配慮事項について 6 産学連携 7 エピソードを書く、話す 8 1～3歳未満児の発達と配慮事項について 9 1～3歳未満児の発達と配慮事項について 10 乳児(0～3歳未満児)保育における週案の考え方、環境づくり 11 乳児(0～3歳未満児)保育における週案の考え方、環境づくり 12 産学連携 13 GW エピソードから乳児保育における計画(週案)を立てる 14 GW エピソードから乳児保育における計画(週案)を立てる 15 発表会			
必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 『乳児保育演習ブック第2版』ニネルヴァ書房			
参考文献	授業内で紹介する			
担当教員の専門分野等	保育者の「専門性」「実践知」をキーワードに研究しています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	0 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2024年度 講義要綱

科目	子どもの健康と安全		必修 講義	講師	中村 直美
授業概要	保育における健康、安全の管理に関する知識を知り、具体的な方法を体験し、自分自身や仲間と考えてみることで実践力を養っていく。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1. 保育現場における保健的観点を踏まえた衛生管理や感染対策についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容についての試験(20点)		
到達目標2	2. 保育現場における保健的観点を踏まえた安全管理や救急対応についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容についての試験(20点)		
授業方法	パワーポイントを使用した講義で基本を学び、グループワークや演習で体験し、学習を深めていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康観察(身体測定、健康診断)と年間保健計画について 3 保育環境の整備、衛生管理について 4 子どもの事故の特徴について 5 保育所での事故防止と安全管理について 6 産学連携 7 災害への備えと危機管理について 8 体調不良や傷害の対応について 9 救急時の対応について 10 子どもと感染症①(基礎知識) 11 子どもと感染症②(標準予防策、保育所での集団発生への対応) 12 産学連携 13 子どもと感染症③(嘔吐処理の方法) 14 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー)について 15 試験・まとめ				
必須テキスト	全国社会福祉協議会 最新 保育士養成講座第7巻 「子どもの健康と安全」				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	北川 裕子
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 			
到達目標1	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
到達目標2	虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護の基本原則等の復習、子どもの権利擁護 2 保育士の資質と倫理・責務、チームワーク 3 施設養護の生活特性および実際 ①入所、日常生活援助 4 施設養護の生活特性および実際 ②集団生活、家族調整 5 施設養護の生活特性および実際 ③自立支援 6 産学連携 7 施設養護の生活特性および実際 ④退所、アフターケア 8 施設養護の生活特性および実際 ⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価 9 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ①心理的支援 10 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ②被虐待児への支援、親への支援 11 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③障がい児への支援、親への支援 12 産学連携 13 里親等の家庭養護の特性及び実際 14 今後の施設の方向性(小規模化等) 15 今後の社会的養護の方向性(家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等) 			
必須テキスト	なし			
参考文献	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」吉田真理著 萌文書林「図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」原田旬哉他 萌文書林			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	15 %

2024年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a		必修 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)		
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備・発表(20点)その他提出物(10点)筆記試験(20点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の概要 ペーパーサート紹介 2 .実習の心得 個人票作成 3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる 4 実習日誌を書く意義と記入の仕方 5 実習日誌:エピソード記録の書き方について 6 産学連携 7 部分実習指導計画について 8 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認 実習課題 9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方 10 グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成 11 実習日誌:ドキュメンテーション記録について 12 産学連携 13 手遊び・絵本の読み聞かせの発表・ペーパーサートの発表 14 まとめと振り返り・お礼状の書き方 15 試験 最終確認 				
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～子どもの育ちと実習日誌・指導計画～」(萌文書林) 「平成29年告示 保育所保育指針」(チャイルド社)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b		必修 講義	講 師	藤高 直之
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。 				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1) 3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2) 4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ) 5 関わりの技術②:「視点」を養う 6 産学連携週 7 子どもの育ちの理解③:発達障害 8 関わりの技術③:療育場面より 9 施設実習先の発表 10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備 11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1) 12 産学連携週 13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2) 14 実習日誌の理解と練習 15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること 				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の 専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科目	子どもと保育 選択必修 講義		講師	佐藤 博美
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する 2 「保育所的一天」一日のながれを知り、実習をイメージする 3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する 4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる 5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う 6 産学連携現場活動 7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 9 「お礼状の書き方」を知り、実践する 10 保育士の話を聞き、保育の楽しさを知る 11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す 12 産学連携現場活動 13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する 14 「まとめ」前期授業で学んだ事を整理し、実習への道しるべを立てる 15 わくわくタイム			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ		選択必修 講義	講師	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、法定伝染病感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる 2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 8 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リズムを含む歌遊びの演習 11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	